

病院のお仕事いろいろ

その1 褥瘡(じよくそう)患者さんを一人でも減らすために

皮膚・排泄ケア認定看護師

三谷 和江(みたに かずえ)
副看護師長

皮膚・排泄ケア認定看護師とは、スキンケアを中心に褥瘡(床ずれ)やストーマ(人口肛門・人工膀胱)などを持つ患者さんのケア、便・尿失禁のある患者さんのケアなど、皮膚のケアや排泄管理・指導を行うスペシャリストです。三谷副看護師長は、現在、褥瘡(じよくそう)管理者として病棟を見回り、体圧分散寝具の選択や、褥瘡予防・治療ケアに対する助言を行っています。褥瘡とは、長い間病床にしているために、骨の突出部の皮膚や皮下組織が圧迫されて壊死(えし)に陥った状態のことです。本院では医師や看護師だけでなく、管理栄養士や理学療法士など多職種からなる褥瘡対策チームで対応にあたっています。三谷副看護師長は、その褥瘡対策チームの一員として、職員が連携し、それぞれの力を活かせるようにコーディネートをする役割を担っているそうです。ストーマケア外来では、ストーマ周囲の皮膚障害の予防とケア、ストーマ装具の選択と装着の方法の説明などを行っています。退院後の日常生活において患者さんが困ることがないように、装具の付け方や治療について、分かりやすく説明することが必要とされます。細かな配慮が必要となる難しい業務ですが、

徐々に日常生活を取り戻していく患者さんの姿を見ると、やりがいを感じるそうです。今後は、皮膚・排泄ケア認定看護師に興味を持ってもらい、やりがいを感じて働く後輩を一人でも増やしていきたいと語ってくれました。



その2 目の検査のエキスパート

視能訓練士

伊藤 浩太郎(いとう こうたろう) (写真左)
宮下 領介(みやした りょうすけ) (写真右)

視能訓練士とは、視機能検査と視能矯正のエキスパートです。主に[1]眼科一般分野の視機能検査、[2]眼科専門分野の訓練指導、[3]集団検診視機能スクリーニング、[4]視力低下者リハビリ指導などの業務を行います。二人は、視力検査、屈折検査、眼圧検査、視野検査をはじめとする様々な眼科検査を行うほか、以前は眼科医が行っていた眼底写真撮影や超音波検査といった専門的な知識を必要とする検査も行っており、医師の負担を減らす重要な役割を果たしています。正確な検査を行うためには、患者さんの協力が重要なので、普段から患者さんとのコミュニケーションを大切に、親しみを感じてもらえるように心がけているとのこと。また、視力の悪い患者さんが多いため、介助の際には特に注意をはらっているほか、小さいお子さんが検査を受けられるときは、検査に集中してもらうために言葉づかいを変えるなど、細やかな気配りしておられます。現在では、1日に100人を超える患者さんの検査をする日もあり、多忙ではありますが、視力が上がった患者さんが喜んでる姿を見た時、自分の名前を覚えてくれた時などにやりがいを感じるそうです。最後に「今は検査を中心に行っているが、弱視などの訓練をさらに

取り組んでいきたい」(伊藤視能訓練士)、「医師から指示がある前に自ら考えて検査を行うことができるようになりたい」(宮下視能訓練士)とそれぞれの意気込みを語ってくれました。

